

令和3年度下松市総合教育会議議事録

1 開催日時 令和3年11月11日（木）午後2時20分～午後3時35分

2 開催場所 末武中学校総合学習室

3 出席者 [構成員]

市長	國井益雄
教育長	玉川良雄
教育委員会委員	江口雄二
教育委員会委員	篠原照男
教育委員会委員	白木正博
教育委員会委員	林 哲人
教育委員会委員	木佐谷真理子

[関係者]

末武中学校校長	濱崎美幸
総務部長	大野孝治
企画財政部長	真鍋俊幸
教育部長	河村貴子
教育次長	今谷昌博
学校教育課長	星野朋啓
学校給食課長	池田千帆
生涯学習振興課長	引頭康行
図書館長	長弘純子
学校教育課課長補佐	田谷義和
学校教育課指導主事	河村貴之
学校教育課指導員	島田和昌
教育総務課管理係長	金子麻紀
教育総務課管理係	谷広史章

4 会議の付議の顛末

○教育次長 定刻となりましたので、ただいまから令和3年度下松市総合教育会議を開会いたします。

本日の進行を務めさせていただきます、下松市教育委員会教育総務課の今谷と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

開会に当たりまして、國井市長よりご挨拶を頂戴いたします。

○市長 皆さん、改めましてこんにちは。令和3年度下松市総合教育会議の開催に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。教育委員の皆様には、ご多用の中お集まりいただきまして、ありがとうございました。また、末武中学校の皆様方には、ご協力によりまして学校現場で総合教育会議を開催できることとなりました。本当にありがとうございました。

さて、新型コロナウイルス感染症は、学校生活にも多大な影響を与えておりますが、行動制限

がある中、様々な工夫を凝らして運動会や文化祭を開催されるなど、安全・安心に学校を運営されており、深く敬意を表するものであります。また、学校におけるICT教育も、GIGAスクール構想が言われて間もなく感染症の急速な拡大により、機器の整備を大幅に前倒しすることとなりました。令和2年度はタブレット端末の購入や校内通信ネットワークの整備を行うなど、教育環境は目まぐるしく変化いたしております。

そうした中、ICTを活用した事業が令和3年度から本格的にスタートしたところであります。本日は未来を切り拓く子供たちの学び方、ICTの利点をどう生かすかを議題に、協議を進めてまいります。皆様のご意見をお伺いし、目指すものを共有し、下松市教育大綱の基本目標であります多様な教育学習の機会の充実による、生涯にわたり生き生きと学べるまちづくりの進展が図られることを期待しております。本日の会議が実りあるものとなりますよう、積極的なご発言をお願い申し上げます、簡単でございますが、開会に当たっての挨拶とさせていただきます。本日はよろしく願いいたします。

○教育次長 ありがとうございます。

本日の日程でございますが、初めに末武中学校濱崎校長から、学校でのICT教育の現状について、ご報告をいただきます。続いて、教育総務課と学校教育課から、本市の取組状況について説明し、その後、國井市長と教育委員会との意見交換、協議を行なうこととなります。

それでは、濱崎校長、お願いいたします。

○校長 それでは、失礼いたします。校長の濱崎でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日はようこそ、この末武中学校にお越しいただき大変ありがとうございます。コロナ防止ということで、この秋の運動会や文化祭、皆様方へのご案内を控えさせていただきまして、大変ご無礼をいたしました。現在、安心はできないけれども、コロナも少し落ちついておりまして、こうして対面での会議を開催できること、会場校としても大変うれしく思っているところでございます。

さて、先ほど委員の皆様には、5時間目の授業をご覧いただいたところです。ご覧になってお分かりのとおり、各学年の当校生徒は大変落ち着いて授業に取り組んでおります。今回の総合教育会議の議題はICTということで、本日はICTを活用した場面の授業をご覧いただくということにいたしました。2年8組の理科の授業は気象の授業でございまして、自分の生まれた日の気象をインターネットで調べて、天気図に、あるいは気象記号を記入するというようなことをやっております。

それから3年7組の数学の授業では二次関数の、放物線のグラフを、タブレットで表示して、共有しながら問題を解いています。それから特別支援学級のみさとは、3組と4組をつないで、学校内での遠隔授業を今日は実施してございました。みさと4組というのは病弱学級でありますので、多く的人数の中に入れない子供たちがおりますので、そういった子供たちが特別支援学級の別の子たちとクイズを出し合うというような授業を、展開してございました。

昨年1月に示されました国の中教審の答申や、このたび改訂されました、下松市の教育大綱にも記載されてあります個別最適な学びというのが、これからのキーワードとなってまいります。現在、ICTを活用しながら、新たな学びに向けて本校でも授業改善を進めているところです。全校生徒に整備をしていただいております、タブレット端末については、現在様々な使い方をしております。

特に今年度4月に、本校はコロナ感染症の影響を受けまして、随分多くの生徒が出席停止、自宅待機、あるいは一斉休業ということになった時期がありました。その間においてもタブレット端末の持ち帰りや、Wi-Fiルーターの貸出しなどの対応によって、生徒たちの学びを止めることなく、何とか難局を乗り切ることができました。その際には、市教育委員会や関係部局の皆様が大変ご尽力いただきました。この場を借りてお礼を申し上げたいと思います。

そうした状況乗り越えまして、現在1人1台端末の活用は、通常の授業におけるの活用となっております。4月に比べればかなり定着をしてきているという状態です。教員のほうもタブレット端末の扱い方等についてはまだまだですけれども、研修を積み重ねておりまして、生徒ほどのスピードではないのですけれども、ベテラン教員のほうも頑張っているという状況でございます。

主に授業では、グーグルから提供されている無料のアプリケーションが全てタブレットの中に入っておりますので、これを使っていることが多いです。例えばグーグルフォームというアンケート機能のアプリがあり、これを使って、単元の授業の最初に生徒の学習に対する事前の調査をします。どんなことに興味があるか、こういう言葉を知っているかなどアンケートでぱっとすぐ、瞬時に集計します。非常に便利でございます。

あるいはジャムボードというソフトがございまして、付箋をホワイトボードの上に貼っていくような機能があり、いわばバズセッションと言いますか、みんなで議論をするときに、自分の意見を書いてどんどんそれに貼っていくということが出来ます。なかなか通常の一斉授業でありますと、手を挙げて発表するということが苦手な生徒も中にはおりますけれども、そういった子がどんどん書いて貼っていき、自分の意見を表明することが出来ますので、発表するのが苦手な子も活躍できるという使い方も出来ます。

それから、スプレッドシートというアプリがございまして、これは主に授業の振り返りに活用しています。生徒が個別に打ち込んだデータを1枚のシートに集約してくれる機能でございます。授業の振り返りというのは生徒が学習内容を振り返って、定着を促す意味で大変重要なのですが、このアプリでは、生徒自身がどんどん感想や振り返りを記入していくと、それが1枚の表になり、教員は一元的に管理ができるようになり、さらに学習の足跡として記録が残ります。記録が残るということでは、評価に大変役立つアプリであります。

また、授業だけでなく、まだ試行段階なのですが、全部のクラスではありませんが、タブレットを使って、毎日の朝の健康観察をしています。それから、先月は生徒会役員選挙の規定を改定するための臨時の生徒総会を、遠隔で、全体の説明をタブレットで行いました。中味は生徒会役員選挙の規約の中に男女比の規約が実は、男子何人、女子何人、それをなくそうということで、生徒のほうから意見が出まして、タブレットを使って投票いたしました。そうすると、集計が一瞬ででき、大変効率的にやっておりました。それから12月の、生徒会役員選挙の投票もタブレット端末を使って行うようにしております。

ただし、こうしたアプリケーションは良いことばかりではありません。実はよく不具合を起こし、時々固まって動かなくなることもあります。あるいはクラウドを介して情報のやり取りをすることがありますので、セキュリティという点では不安なところもありますので、成績処理には使っていません。個人情報がたくさん入るものについては利用しにくいところもあります。

そうした意味で、学習専用のアプリケーション、例えばロイロノートというような製品が出ておりますけれども、こういったものが導入されるとありがたいと学校現場としては考えております。それからインターネット回線について、一度に多くの生徒がアクセスをしますと動かなくなるということもあります。インターネット回線をぜひ太くしていただいて、多くの生徒が学校からの情報を一気に取りに行けるような状況になりますと、大変ありがたいと思っています。

それから持ち帰りも視野に入れて、現在進めておりますけれども、AIドリルのような、自学自習に役立つものもあると、子供たちの学力の定着に役に立つだろうと。生徒たちは我々大人が考えるよりもはるか上を超えていくというようなことがよくあります。特にICTを使って学習するときに、学びの世界を子供たちは我々より超えております。そうしたときに、ハード面の制約があるがために、制限されるということがあってはもったいないなと感じておまして、ICT環境の整備についてセキュリティ一面も、ぜひ余裕のある、将来性のある環境が整備されることを学校現場としては願っております。

長くなりましたけれども、以上、本校におけるICT活用の現状について、報告いたしました。

○教育次長 続きまして、教育総務課、学校教育課から本市の取組状況について説明させていただきます。

○学校教育課長 それでは、ただいまより本市小中学校におけるICT教育、GIGAスクール構想についてご説明いたします。私は学校教育課の課長をしております星野と申します。どうぞよろしくお願いたします。座ってお話させていただきます。両方にスクリーンがありますので、見やすいほうで見ていただけたらと思います。

教育委員会では、心豊かに生きる力を育むという、下松教育の基本目標に基づき、これまで様々な教育実践を積み重ねてまいりました。本年度は、これまでの教育実践を大切にしながら、1人

1 台端末の導入により、ICTを活用した主体的、対話的で深い学びの実現に向けた、教育活動への取組を本格的にスタートさせたところです。本日は、教育委員会が行なっている環境整備と推進体制づくりについてご説明した後、小中学校における具体的な授業実践について事例を取り上げながら説明いたします。

○教育次長 環境整備について、ご説明いたします。令和元年12月、国はGIGAスクール構想の下、1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、公正に個別最適化された学びの実現に向けて動き出しました。本市においては、令和2年3月にタブレット端末の整備と校内通信ネットワークの整備に関する補正予算を計上しました。この時点では、令和元年度からの5か年で1人1台端末の整備を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う学校休校の長期化により、計画を大幅に前倒すこととなり、タブレット端末等の整備に関する補正予算を令和2年5月に再度計上することとなりました。

具体的な整備状況ですが、令和2年度は小学校3年から6年、中学校、教師のタブレット端末の整備、幹線ケーブルの強化、無線アクセスポイントの整備など、校内通信ネットワーク整備工事、その他GIGAスクールサポーターの配置、家庭用モバイルWi-Fiルーターの購入などを行い、約3億3,000万円を支出しております。なお、これらの支出に対して、国庫補助約1億5,000万円を受けています。

令和3年度につきましては、小学校1・2年生分、中学校の予備分、それと教師用不足分のタブレット端末の整備、一度に複数のクラスがインターネットを利用した場合、接続に不具合が生じやすい大規模校、小学校3校と中学校2校のインターネット回線の増設、その他タブレットの初期設定を行うGIGAスクールサポーターの配置などを行うこととしており、これらICT環境の整備に係る令和3年度の予算額は、約7,700万円となっております。

4ページに移ります。環境整備について、体系的に示しております。GIGAスクール用端末については、昨年度中に各校へ配備し、本年度から本格的に授業で活用しているところです。なお、昨年度配備できなかった小学校1・2年生用タブレットについては、今月下旬から順次配備する予定としており、年内には1人1台端末の整備が完了いたします。高速通信回線、LANのセキュリティーについては、大規模校のインターネット回線の増設を今年度中に整備し、通信環境の改善を図ります。また、タブレット活用の決まりを作成するなど、セキュリティーポリシーを整備し、情報セキュリティーの強化を図ります。大型テレビをはじめとする周辺機器につきましては、計画的に整備を進め、ICT教育の充実を図ってまいります。

最後に、授業、校務支援アプリについては、授業等で活用できる協働学習ソフトの導入や、教職員の業務の効率化を図る統合型校務支援システムの導入を検討してまいります。

○学校教育課長 次に、通信体制について、ご説明します。教育委員会では、部内会議を月1回程度開催し、ハード面を強化する教育総務課とソフト面の充実を図る学校教育課が連携し、ICT教育の推進を図っております。この組織において、GIGAスクール構想の整備スケジュールやロードマップの作成といった進行管理から、iPadの仕様書や緊急時の持ち帰り規定の作成といった具体的な内容まで、幅広く検討を積み重ねております。また、昨年度よりICT教育推進協議会を立ち上げ、各校の代表者と教育委員会の担当者により、学校現場のニーズに応じた施策の検討や研修の推進を図っており、各校の教職員のICT活用能力の育成にも努めているところです。

これは、先ほどご紹介したロードマップです。本市における1年間のICT教育推進の流れを示しております。お手元にA3版のカラー刷りのものがあると思いますので、こちらをご覧ください。児童生徒の姿のところの①のところをご説明いたします。児童生徒の姿としては、学習したことをタブレットで表現すること、②ドリル学習ソフトによる自学自習、自己評価をすること。③協働学習用ソフトを使って、授業で子ども同士、先生と子どもで意見交換ができる、の三つの姿をステップとして示し、授業の狙いに応じて活用を進めております。教師のスキルについては、この児童生徒に求める姿に対応する形で定めております。

次のページ、今度は、また画面を見ていただけたらと思いますが、これはICT教育推進協議会におけるクラウドについての研修の様子です。このように研修を進めてまいりました。

それでは、これから実際の授業におけるICTの活用について、①個別学習、②協働学習、③

振り返りと評価、④遠隔授業の四つの場面をご紹介します。これは、小学校算数科の平行四辺形の面積についての学習場面です。左下にお示しした平行四辺形の面積の学習では、三角形の面積を求め、それを2倍することで平行四辺形の面積を求める考え方を、子供たちがタブレットに書き込んでいます。自分の考えをまとめていく過程で、文字を消したり、図形を動かしたりすることが容易にできます。また、右下の重さの学習では、数直線の図を使って、重さの計算を表しています。さらに、データベースから自分がつくったこれまでの学習記録を取り出すこともできます。個別学習の際にICT機器が学習の道具として、子供一人一人を助けています。

次は、複合図形の面積を求める学習場面です。左側にお示ししておりますのは、ヒントカードです。必要な場合には、子供が自分で確認いたします。右にお示ししているものは、子供たちがつくった表現物です。教師の立場で考えますと、子供たちの表現したものを集約して、教師自身が確認できるので、一人一人の反応や学習の状況を短時間で把握できます。また、黒板を使う場面と比較すると、時間をより有効に使えるという利点があります。

次は、個別学習を協働学習へとつなげる学習場面です。左には、二つの課題をお示ししております。そして、それに対応して右側子供たちがつくった表現物をまとめて表示したものです。このように、子供たちの表現物を並べて示すことで、比較や関連づけという思考が働き、子供同士の双方向の関わりを効果的に促していくことができます。

次のページにいきます。これは総合的な学習の時間の学習場面です。ヒストグラムを使ったポスターのよさについて、専門家からオンラインで説明を受けた後、付箋型の表示を使って、全員の考えを出し合い、これを基にして話し合いを深めていった実践です。ここでも子供たちがつくった情報を1か所に集めることで、比較と関連づけがスムーズに行われました。

次にいきます。これは体育の授業で、ソーラン節の音楽に合わせて踊る学習をしている場面です。タブレットの映像再生機能を活用し、模範の演技を一時ストップして観察したり、スロー再生をしたりして体の動かし方を確認し、練習に生かしております。ここでも繰り返し再生できる、また録画できるというICT機器の強みが活かされていると考えます。これも体育の授業場面ですが、学習ソフトには記録を整理する機能もついております。先ほど濱崎校長さんも言われましたけど、自分の記録を数値として入力することで、記録の変化を示すグラフが出来上がり、記録の伸びを視覚的に捉えることができます。

次は、学習ソフトのほうについてですが、学習ソフトには思考ツールというものが入っています。この左上にあるこの青いものですが、クラゲツールという思考ツールです。これは考えを深める際に有効と言われているものです。子供たちが物語文の学習で、うれしい気持ちが表れている部分を、教科書の本文から探し出して、この下の小さな丸に書き加えていく、そして意見をまとめている場面です。個別学習でも可能な活動ですが、協働学習として互いが話し合いながら書き加えることで、双方向的に関わりながら考えをまとめていくことができます。書き直しや図形の移動、追加も簡単にできるという良さがあります。このほかにも、大型モニターによる全体へのまとめや、タブレットを囲んでのグループによるまとめなどもできます。

次にいきます。学びの振り返りや評価の場面でも、データ処理や統計的な面からタブレットを有効に活用できます。それで、左側の回答入力フォームに一人一人が回答を入力すると、平均点や間違いの多い問題などの傾向が瞬時に表示されます。教師にとっては採点や評価の時間の短縮につながり、その分子子供たちへの指導の時間が確保できるという良さがあります。

最後になりますが、遠隔授業についてです。現在のコロナ禍において、ICTを活用した遠隔授業は大きなメリットです。この場面は、先日行った学校と市役所を結んだ遠隔授業です。市長さん、教育長さんからリーダーの役割やお仕事などについての説明を受けた後、小学生や市長さんや教育長さんに質問する時間を設けることで、関わりながら子供たちの学びを深めることができました。今回は、学校と市役所との遠隔授業をご紹介しましたが、県外や外国の方との遠隔授業も実現可能です。ICTの活用により遠く離れた人との関わりによって、幅広い学びが生まれることを期待しております。

現在、学校教育課では、GIGAだよりにより各校の実践の情報を発信しております。また、学校から要望があるときには、学校に向いてICT活用の支援を行うなど、全ての学校がICTを効果的に活用した教育活動を推進できるよう、支援を行っているところです。

最後に、今後の課題についてお示ししております。目を通していただけたら、ありがたいです。これらの課題を解決しながら、児童生徒の主体的、対話的な深い学びの充実を図ってまいります。以上で、説明を終わります。

○教育次長 それでは、議事に入る前に、1点お願いがございます。この会場は教室に近く、授業中でもありますので、本日はマイクを使用いたしません。皆さんに聞こえるようにご発言いただきますよう、お願いいたします。

それでは議事に入ります。議事の進行につきましては、下松市総合教育会議運営要綱第4条第3項の規定により、会議の議事進行は市長が行うこととされております。國井市長、よろしくお願いたします。

(1) 未来を切り拓く子どもたちの学び方

○市長 それでは、議事に入らせていただきます。

今日のメインテーマは、未来を切り拓く子供たちの学び方、ICTの利点をどう生かすかが、これが大きなテーマであります。最初に、先ほどの授業参観、また本市の取組の説明、それらを含めて、委員の皆様方からご意見を、感想も含めてお聞きしたいと思います。どなたからでも結構です。よろしくお願いたします。

○委員 いろいろと見させていただきまして、一部なのですけれども、我々の子供の頃の授業と全く違う形態であって、まず驚きました。先生にも聞いたのですけれども、ICTの活用は授業の何パーセントぐらい活用するのかという質問をしたら、授業によって違うようだけれども、多くて半分、大体30%ぐらいじゃないかということです。特に英語は100%って言っていました。理科は半分ぐらい。だから学科によって随分違いますけれども、その活用方法によって深く掘り下げられるし、また同時に生徒が瞬時に理解できると思いました。

それからさっき気象の話をしていましたが、各自の誕生日の気象が一瞬のうちに、各自それぞれのタブレットで検索できるというのは、非常に便利ですよ。ただ、見ていると、タブレットをいじりながらやっているから、授業の速度が遅くなるのではないかという感じはしました。ただ、それだけ深く掘り下げることができるし、大変便利だと思います。

ただ、大人から見ると随分タブレットが小さいので、タブレットを見ていると目が悪くなるのではないか、あるいは常に下を向いているので、姿勢が悪くなるのではないかと、そういった面もちょっと気になりました。

それから、来年度までに回線が太くなるっていう話を聞きましたが、今聞いていると時々フリーズが起り、固まってしまうと。こういったことを改善されれば、いろいろな活用方法があると思います。問題は、このソフトが出ているのですが、それをどのように活用していくかという問題と、教科書もこういったタブレットのような内容の教科書に、また変化してくると思うのです。これを、我々が、教育委員会にどういった教科書を選定するかとか問題があると思います。ただ大いに活用方法はあって、子供たちのためには非常にいいと思います。

それからもう一つは、タブレットを家に持ち帰ってもいいって話が出ていますので、親との連絡方法とか、いろいろな通信方法、ネットワークの回線については随分進歩できると思います。ただ、それを悪用されないように、これも大事なことだと思うので、こうした点も考えていったらとてもいいと思います。

以上です。

○市長 ありがとうございます。感想ということで、一つ一つの回答は、また後ほどということですね。

ほかの委員さんからご意見、感想ありますか。

○委員 私も、最初3年生から見させていただいたのですが、教室に入って最初に感じたのが、机が余りにも小さいのではないかと。先程タブレットが小さいと言われましたが、タブレットを置いたら、その作業スペースがほとんどないような感じで、ひょっとしたら何かつける必要があるのではないかなと思いました。そして、よく学習支援員といいますか、今日の授業の様子を見てい

ると、先生は一人でやっていけるのではないかなというふうに感じました。

そして、2年生の、私がちょうど入ったときはQRコードからホームページを引っ張り出すということをやっておられ、子供たちを見たら、すごくスムーズに、多分あのあたりは、私が目に入った中ではできない人は誰もいなかったと思います。多分、スマホとかを子供たちは使っているから、パソコンも一緒ですから、その辺で上手にできるのではないかなと思いました。

○市長 ありがとうございます。どうぞ。

○委員 正直な話、これだけ子供たちが全員うまく、ほとんど差がなくてできていることに感心しました。ここまで指導された先生方、相当お忙しかつたのではないかなと思いました。あと、教師というか、教員の先生の立場から言うと、学期末とかいろいろなときに評価をまとめていく、あれ結構時間を食うと思うのですが、今回のタブレットをうまく使えば、確かにそういう意味の仕事の軽減っていうのはできるのかな。あと、恐らくこれからも使われるものですが、例えば数学とかできる子とできない子の差が大きい教科については、習熟度というか、できる子についてはどんどん先に進んでいく。できない子については別な問題を用意してあるということもうまくできるかなと思いました。

○市長 ありがとうございます。よろしいでしょうか。

○委員 ありがとうございます。GIGAスクール構想がちょっと前倒しに急になった中で、市も、もろもろの整備とかすごく急がれて、また先生たちもすごくタイトなスケジュールの中、お仕事が忙しい中すごく頑張って研修を積まれたのだろうなと思って、拝見させていただいたのですが、やっぱり子供たちとかから、小学生、中学生、高校生とかいろいろ触れ合う機会があるのでお話を聞いていると、授業によって使われる頻度とか、この先生は使うけど、この先生はあまり使わないとかっていうのを、よくお話を聞くのです。

やっぱりその辺は、また先生たちお忙しい中、まだまだ頑張っていかなければいけない部分もあるし、子供たちは、先ほどから言われているように、すごく慣れるのが早いというか、大人よりずいぶんと本当に使い慣れていて、多分習熟もあつという間だと思うのです。けれど、それよりもやっぱり先生が先んじて、先生という立場である限りは、先生のほうが使いこなせるという状況になっていないと、難しいのかなって、その授業を円滑に進めるに当たっては、難しくなってくるのかなというの、すごく感じました。お忙しいので、あまりガンガン言ってもあれなのですけど。

今から子供たちに最終的にこういう力をつけるために、このICTを活用していこうという目標を、まず決めないといけないと思うのですが、それこそこういう力をつけてほしいから、こういう活用の仕方をするために、先生はこの授業でこういう使い方をしていくというような、効果的な使い方というのをいろいろ試してみて、見つけていくのが一番かなと思います。間違えてもいいので、たくさんやってみて、これは効果的に子供たちが学習できて、こういう力がついたなというのを、何年かかるかわからないのですが、今から2年後とか、3年後とかっていう、ちょっと目標設定をしながら使っていく。先生たちも研修をしながら、子供たちも学ばせながらやっていくのがすごく大事と感じました。

ただ、タブレット学習をすると、先生とあまり意見交換ができなくなってしまうのかなというのはあったのですが、使いながらもちゃんと先生と視線が合ったり、対話があったりっていうような授業だったので、その辺はちょっと安心しました。

○市長 ありがとうございます。授業参観での感想ぐらいと思ったら、かなり深い、入り込んだようなご意見をいただきました。ありがとうございます。

○委員 今日授業を見て、やっぱりデータの整理とか、それから古いデータを入手するとか、それからそれを分類するとか、そういうデータに関してはかなり活用範囲が広いというか、このようにもできるのかというのがよく分かったのですが、それと、遠隔的コミュニケーションですね、今までそこに行かないといけない、あるいは教室から校庭の様子がよく分かる、あとそことコミュニケーションができるとか、なかなか便利な面は確かに、今からどんどん活用すべきだと思うのだけれども、一括して、自分はできている、できていない、ほかの人はできているとか、それは比較して一つの画面で分かるということになると、僕の一つの懸念としては、自分が分かっているとか、分からないというのを、今は人にあからさまにさらけ出すというのがブ

レクチャーになるような、子供さんにそのうち出てくる可能性もあるのかなと思う。そういうところが今からデジタル教科書とかでどんどん科目が増えていったときに、片方ではこういうのを使いこなさないといけない、あるいはそのメリットがあるから、やっぱり世の中の流れとしてどんどんそれは進んでいく。だけど、それで人との差というか、それがまたいじめの原因になったりしないか。あるいはその人のトラウマになったりしないかっていうことですね。今から課題山積というか、やってみないと分からないところが、かなりあるのかなと思いました。

○市長 ありがとうございます。

○教育長 たくさんいいところと課題とか、委員さんのほうから言っていただきまして、ありがとうございます。私は公集小に勤めていたから、1、2、3年生ともそれぞれ教え子といいますか、子どもたちがどういう様子かなというのを見てみたいと思って、今日来ました。特別支援学級の子供にもいたのですけれど、非常にしっかり中学生らしく成長してきたなと思いました。目を見てちゃんと私のことも覚えてくれていて、挨拶もしてくれました。

タブレットで遠隔授業をして、クイズ形式で漢字を子供たちがつくって、それを当てるというようなことをやっていたけれど、本当にタブレット、そしてインターネットがあるからこそ、ああいう授業の中で子供たちの表情が見られたのかなと思いました。短い時間でしたけど、本当に生き生き活動していたので、うれしかったです、成長の姿が見えて。やっぱり学年が1、2、3と上がっていくにしたがって、随分違うなと思いました。

最初理科の授業を見たのですけれど、やはり理科は先生とのやり取りが非常に活発でした。タブレットを使いながらも、若い先生が授業をされていました。2年生、ものを言わなくなるような学年でもあるのですけれど、非常に元気よくやっていたので、よかったなと思います。やはりインターネット、タブレットを媒介としてコミュニケーション、対話を中心とした授業ができていたかなと思いました。復習の場面を見ることができました。

それから数学の授業は、やはりさっきから出ていましたけれど、机が小さく感じました。子供たちは先生がタブレットを使って、先生が説明とか書き込んでいらっしゃったのですけれど、その書き込みが全部出るわけです、個別に、子供たちの。それを机の上に置いているのですが、ちょっと手が当たったら落ちたりして、破損にもなったりしてしまうのかなと思いますし、やはり活動場所等、工夫がいるのかなと思いました。

昨年準備を始めてきて、今日のような授業が見られるとは思っておりませんでした。随分変わってきたなと。その分、子供たちも先生方も、保護者も含めて大変負荷がかかっていたのだろうと思います。急ピッチで、ここまで仕上げ、まだ途中段階ですけれど、いろいろ課題はありますけれど、しっかり先生たちの意見も聞きながら、必要な手当、支援を行政からもしていないかとは思えない。ソフト、ハード面から十分検討していきたいと思いました。

○市長 教育長が覚えておられたと、大変感激していますが、ありがとうございます。

今、タブレットが小さいとか、机が小さい、私もそういうふうになんか感じたのですけれど、難しい話になりますと、後ほど学校教育課長のほうから答えてもらうということで、次に進みたいと思います。

今後の課題にも出ておりますが、家庭での利活用の検討、持ち帰り試行による検証という、これは今後の大きな課題になると思います。それで、この辺を協議していただく前に、当事務局のほうから問題等について現状のお話をいただいたらと思います。

○学校教育課長 まず、現状についてご説明します。11月10日ぐらいから11月の末をめどに、家庭への持ち帰りを試行しております。各家庭において、インターネット回線につながるかどうかという確認をしてもらっているところです。現時点では、この持ち帰りについては非常時を想定しておりますが、今後、家庭学習への拡大をしていかなければならないと考えております。その上で、今もたくさんいろんなアイデアを出していただきましたけど、家庭学習として今まで紙でドリルとかプリントをやっていたことから、このICTを使った家庭学習への移行のところ、課題があるかなと思っております。

先ほど委員さんからもありましたように、使い方ですね。リテラシーと、あとは倫理観というか、その辺りも一緒にやらなきゃいけないというのがありますので、その点が課題だと考えております。

○市長 今、学校教育課長のほうから説明がございましたが、先ほど教育長も、これは今段階的な、途中の段階だという話もありました。まさにそのとおりだろうと思います。コロナで急に、事務局から説明もありましたが、前倒し、前倒しで、急遽備えたという経過もある中で、子供たちは遊び感覚でどんどん使い、教える側も一挙に、そういう中で、家庭に持ち帰っても、また家庭でも協力してもらおうと、そういう段階も今から迎えるわけですが、ちょっと今、学校教育のほうからの説明を受けて、皆さん方のご意見あればどうぞ。

○教育長 今、課長のほうから話がありましたけど、今後、家庭に持ち帰っての学習がスタートするということを想定して、今準備を始めているところです。当初は、家庭に持ち帰るということで、インターネットがつながっていない家庭もありますし、経済的にも難しいという家庭もあるので、大きな課題はまずそこだろうと。あとセキュリティーの問題もあると。破損したときにどうするのかなど、4月当初には持ち帰りについては、本年度中は難しいだろうという想定をしておりました。

ただ、コロナで末武中学校さんのほうで、ぜひ家庭学習をさせたいということで、実際始めました。非常に、校長先生方や職員のほうでいろいろ対策を考え、やり方を考え、スムーズにやっただいて、それなりの成果を上げていただいております。これからは、とりあえず持って帰って、万が一非常時、自然災害とか感染症とかで、また学校が閉まるようなときには、それはやらなくてははいけないということで、試行を11月に各学校でやっております。

それで、つながるのが確認できたら、何かあったときにはそれでやっというスタンスにしています。日常的に持ち帰って家庭学習ということは、現時点ではまだ考えておりません。そういう現状であります。

○市長 そういう現状の中で、これからいろいろな事態も想定されるわけですね。そこで委員の皆さん方のご意見がございましたら伺います。

○委員 たまたま新聞の一面のトップに、学習端末トラブル続発、いじめや中傷と、大きく一面に取り上げられていました。そして、児童がわいせつ画像を閲覧したりとか、ほかの子供の端末にアクセスしたりとか、悪いことばかり書いてあるのですが、新聞を見ますと結局情報モラルの教育の充実しかないのではないかと。情報モラルって、あまり聞き慣れない言葉なのですが、ちょっと見たら、人に迷惑かけず、余計なことをせず、注意されたことをやらず、自分の中に埋もれる悪い心や欲求を押さえると、それで危険なものに近寄らない。こういうモラル、教育をきちんとするしかないのではないかとというふうに書かれているのですが、私もそう思います。だから、端末を使う心構えっていったらおかしいのですが、どういうふうにしたらうまく使えるかという教育を、多分しておられると思いますけど、する必要がある。それから、機械を使う前に、使うモラルといいますか、それをしっかり教える必要があるのではないかと思います。

○市長 今のお話は、先ほどの委員さんの、子供たちが今の段階で分かっている、分かっていない、プレッシャーになりはしないかという話とちょっと通じます。これは難しいところですね。学校現場も非常にこれは悩んでおられると思うのですね。

○委員 もう圧倒的に便利なので、悪いところばかり強調されると困るのですが、試行錯誤の中、そういうのをちょっとずつ減らしながらやっていくしかないと思います。

○委員 今の場合で、インターネットで、例えば子供たちの持っているタブレットで、外にもそういった情報を出す機能はあるのですか。もう外とは遮断しているのではないのですか、

○学校教育課長 セキュリティーソフトが入っていて、設定されていて、不適切なサイトにはつながらないようになっております。あとチャット機能もストップするようにしております。

○委員 ですね。もしそういった中傷があれば、その学校の校内で持っている子供、親、そういった中だけのものですね。

○学校教育課長 基本的にはそうしています。

○委員 あともう一つは、そういう書いたものは特定できませんか、必ず。

○学校教育課長 特定は可能だと思います。

○委員 ですね。

○学校教育課長 その機器を使っていればです。ただ、誰が使っているかというのは、問題になります。

○委員 新聞を見ますと、フィルタリングがかかっている。それを全部突破しているのです。だから追いかけてこになると思うのですけれど、やっぱり子供のほうが一枚上かも分かりません。

○市長 家庭へ持ち帰っての利活用の話が、ちょっと次の段階の話にいきかけているので、ちょっとさかのぼってもらえますか。ここに今後の課題で出ました。この家庭での利活用の検討、持ち帰り試行による、この次の段階に。そういう方向でいきますか。一番難しい話にいきましょう。

○教育長 授業でも、家に持って帰っても、学校でもやる時にはやると思うのです。チャット機能も今ストップして、できないのですけれど、それこそいろんなところをサイトからやり方を調べてきて、パスワードでも盗めるらしいのです。今は分からないようにはなっていますけれど、パスワードが分かったら悪用されることもある。なかなかその辺のセキュリティーについては持ち帰りをしたら、危険度は多少上がるかもしれないし、授業でもあるかもしれない。それについては、学校では今、市教委と一緒にやれることは全てやっているような状況です。ですが、やはり完璧じゃないということで、子供たちに社会に出たときに、使い方、マナー、ルールを守ってやるということは、最低限使うものの条件というか、第一条件としてやっていかなくちゃいけないということは教える。

以前から、このタブレットの前からスマホとか携帯とかで、いろいろ子供がトラブルに巻き込まれるということで、保護者と子供たちを対象に学校に集めて、学校で情報モラル教育はやっておりますし、授業の中でも情報モラルについてはやっております。やりながらも、なかなかそこがうまいこといかない。危険もあります。学校はしっかり指導した上で持ち帰りをさせる。させながら、問題があったら、また指導を、保護者の理解も要りますから、保護者にもやはり啓発していかなくてはいけないので、学校と保護者で一緒に子供たちに何か間違いがあったら指導しながらやっていくということになります。

ただ、絶対に起こしちゃいけないのが、やはりいじめにつながるような行動ですね。ただこれも、やはりいずれは出るかもしれません。その辺を覚悟しながらも、あったときにはこういうふうな指導をしようということで、やっていかなくてはいけないと思います。

○市長 これは、委員が新聞を例に出されましたけども、子供たちの問題じゃない、親の、大人もSNSで誹謗中傷が出ただとか、大人のまねをするというような、社会悪の部分も問題になります。例えば、私らもコロナで対策本部会議を開いて、市民の皆さんに協力依頼をお願いする中に、最後に出てくるのは、もう必ず入れるのは、これによって誹謗中傷しないでくださいっていいです。

○委員 車に乗ったら交通事故をするから、車に乗らなかつたらいいと、そうじゃないですね。だからそのいい面と悪い面を比較してから、いい面をどんどん伸ばして行って、悪い面は少なくしていく、それしかないです。試行錯誤の世界でしょう。やりながらやるしかないのです。だから、そのときに最善な方法を考えて、積み重ねていくしかないのではないかなと思っています。

○教育長 あと、家庭学習は、今は従来どおり教科書とノート、問題集で家庭学習をやっているようなことになっていますけれど、それはその良さがあるので、それもやりながら、今度は学習ドリルアプリとか、あるいは今文科省のほうが進めているものがあるのです。メクビットというのがあって、それを全自治体に、やってくれとか、構想を今持っております。そうすると、全国の一斉状況調査、アンケートがあり、それらも全部、一人一人がタブレットに入力して、国が一括して情報を管理するというようなこともできるのです。そして過去問をすぐそれでやれるというようなこともあって。それまで教員が印刷して子供たちに配ってやっていたのを、もうタブレット一つでどこでも勉強できるようになるというふうなこともできるのです。

だから従来型の筆記でやる、書いて学習するパターンと、それからデジタルでやるということをやったり上手にやっていかなくてはいけなくなるのかなと。やはり教師はいろいろ考えなくてはいけない時代になるかなというふうに思いますね。

○市長 冒頭、私、時間を区切っていなかったので申し訳ないのですが、3時半まではと事務局から言われていますので、3時半までに終了させるということで。今、いろいろなご意見いただいています。最初に委員が言われた、便利だけど、ちょっと遅さがあるという話もありましたし、それから中に入り込むと、いじめも、誹謗中傷もあり結局その辺を気をつけないといけないという、

大きな課題も出る。

そういう中で、教育長が言われるのは、途中段階だと、今は試行錯誤を重ねながらやっていくという、まだ事務局も今から苦労されるだろうと思うのです。これをひとつ、そういう段階ではあるけれども、このICT、これを生かして、そういう途中段階であるけれども、何か委員の皆さんが、こういう理想的なというか、何か進め方について、それはもう事務局のほうが一番この進めようとするには苦労されていると思うのですが、委員の皆さんの見識の中でこういうふうに生かしたらいいのではないかと、ちょっとご意見があれば、お1人ずつ聞かせていただけたらと思うのですが。なかなか難しいテーマですよ。

○委員 全体図はよく分からないのだけれど、やっぱり利用するのにいいなと思うのは、ドリル教材ですか、どの課でも教科書本体はやっぱり教科書でいったほうが、どうしても紙の教科書に執着性があるのだけれど、これはその副教材というのは、英語にしろ、何でもデジタルでやったら深く、幅広く把握できると思うので、扱いに慣れていけばできると思うので、積極的に活用する部分ではないかと思うのですけれど。例えば英語の単語、基本的なことはやっぱり書いて覚えるという、そういうものはやっぱり紙ですよ。

それから将来、幾ら画面でやるようになるとしても、やっぱり本を見ないという文化はなくならないと思うので、そのときには活字を見るというか、目で見て自分の手で書くというか、そういうのは基本的にはあったほうがいいのかと思うので、デジタル教科書というよりは、普通の教科書を中心にして、副教材というのをICTで積極的にやるというのが、いいのではないかと、そういう気がします。

○市長 私も今の委員の発言には、私自身が遅れている感覚があるから、委員が遅れているのではないですよ。同調します。これは基本的な問題なので、学校教育課長、答弁を求めたいと思います。どうですか。

○学校教育課長 先日私は指導者として算数科の授業研究会に参加しました。小学校1年生の三角と四角という授業です。子どもは色板を一所懸命丁寧に触って、ひっくり返したりずらしたりして、形をつくるのです。コンピューターを使うと、それは目から入ってくる情報で学習できるのですが、1年生ってというのは筋肉や手の感覚を使うことで脳に刺激を与えて、脳も発達しているのだらうということで、インプットするときに目から情報を入れたら、アウトプットは手でやるか。ものを手で操作してインプットしたら、アウトプットはタブレットを使って画像で出すとか指導の工夫が必要です。また、低学年のときから中学生まで、9年間のカリキュラムでとらえて、どのように育てたらいいかというのを考える必要があると思います。おっしゃるとおり危機感をもってカリキュラムを改善していく時期がきていると思っております。

○委員 僕も委員と同じ考えなのですが、パソコンっていうのはいろんな検索もできて瞬時に消えてしまいますよね。だから僕は機械のパソコンと自分の穴埋め、ノートパソコン、字で書くノートのパソコン、自分のパソコン、自分のノートをつくってほしいと思うのです。どういったことかという、まずいろいろな現象を調べるではないですか、何度も。調べたものは必ず自分がノートに書き写すと。その過程が大事なのですよ。こういったものがあって、これをこう調べて、こうなったっていう、その過程も書いてほしい。要するに、瞬時に絵や何か出たりすると、多分本当にさっき言ったように頭と目だけで考え、思考がない。

もう一つは、字で書かないと、我々も覚えなかったではないですか、書き順とか。字を書かないと、とにかく人間は手を動かさないと、思考能力がなくなってしまいますから、いろんな意味で絵を見て、あるいは年表を調べたら、それがどうなった、こうなった、自分はこう思っていることも感想も書いて、自分だけのもう一つの穴埋めをノートパソコンでやると。ノートをつくってやってほしい。とにかく、いろいろな考え方を字にする、これを忘れたら絶対にだめですから、そういった作業を絶対してほしいと思うのです。

○市長 かなり委員の個人的な思いではありますが、ちょっと大事な話なので、これも学校教育課長のほうから。

○委員 もう一ついいですか。関連しています。未来塾に末武中学校の子で、去年かな、今高1ぐらいの子だと思うのですけれど、来ている子で、国語の勉強をするために辞書を持ってきているのです、国語辞書。その子の辞書は、付箋が上と下と横といっぱい貼りこんでいるのです。だか

ら、その子はすごく辞書を使うことが好きなのです。国語の辞書とか英語の辞書とか、私たちは辞書でいろいろなことを調べました。

パソコンだったら、すぐぱっとそれに近いことが出てくるのですけれど、面倒くさいその辞書を引いて、引くと自分の調べた単語だけではなくて、それに付随した、同じ読み方をするようなものとか、たくさん言葉を覚えることができる。そういう趣旨で、そういう付箋学習というのですが、そういうのをしている子供もいます。だから、便利なところは、どんどん便利にしてほしいですけれど、さっき言われた書くこととか、一々面倒くさいけれど、本を調べることとか、ああいう作業、ああいう学習はこれからも続けてほしいと思います。

○市長 その辺、ちょっとICT教育にブレーキをかけるような意見ですが。

○委員 いや、ブレーキではないです。

○市長 ブレーキというのは悪い意味ではないのです。大事なものもあるよということ。それだけではないよという、今貴重な意見がありましたので、学校教育課長、答弁をよろしくお願ひします。今、試行錯誤だとか、途中段階というような、先ほどから話もありましたけど、今の意見もどう生かしていくかは必要だと思うので。

○学校教育課長 即答は難しい内容ですけれど、やはり言葉とか記号っていうものが頭の中でイメージに結びつけないといけない。そのイメージっていうのは、手を動かしたり、感じたり、匂ったり、いろいろなことで確かなものになると考えます。それが頭の中にあるから、理解が進むのだと思います。コンピューターを使うことによって、そういう力を伸ばす方法もあるかもしれないので、その辺りは研究をしていかないといけない。学校現場で実践は進んでいくので、しっかり学校と協力して、フィードバックしながらやっていきたいと思っています。

○市長 いろいろな意味で立ち止まって研究していくっていうことですから、少しブレーキも踏みながら、了解いただきたいと思います。どうぞ。

○委員 今、学校の先生、ここは中学校ですけど、英語教育とかプログラミング教育とか、またGIGAスクールなど、先生方、大変忙しいし、ものすごくお忙しいですよ。その中で一生懸命考えられて、いろんなことを工夫されて、実現しようとしてされているのですけれども、それを実現するにはお金がないと、どれもなりませんね。予算要求措置、企画財政部長さんもいるので。

○市長 行政でもうずっと長くやっておられて、よく分かっておられるので、その辺はお答えできません。

○教育長 今、委員さんのほうからありましたけど、やはり先生方、ここ一、二年、本当に忙しくなっています。昔も忙しかったのですけれど、比ではないぐらい大変になっています。それだけ教育が日々いろいろなことが新しくなっているということで、新しいことは増えるのですが、昔からあることはなかなかなくならないと。やっぱりスクラップアンドビルドでやっていかなくてはいけないかなと思います。

このICTというのは、いいところはやっぱり残し、取り入れながら、まだICTの良さっていうのは、まだまだ私たちが知らないことがたくさんあるのだと思います。また授業の中で子供たちにどう使っていけばいいのか、この目標に迫るためにはどういう活用があるのかっていうことを、私たち教員が忙しい中ですが、やはり子供たちのために研究、研修を重ねていかなくてはならない。そういう意味では教員のスキルアップということも学校、あるいは教育委員会と協力しながらやっていかなくてはいけないかなというふうに思っています。

このICTの良さっていうのは、業務とか校務を楽にする力もあると思うので、やっぱり校務支援で、今国のほうでDX進めていますね。市役所でもこれからどんどん進んでいくのだと思いますが、文科省でも教育バージョン、DXの教育バージョンをやっておりますので、校務支援ソフトを導入して、教職員の仕事を少しでも楽にして、先生方が子供たちに向き合う時間をつくっていききたい。新しいことが始まりますので、先ほど委員さんのほうからありましたが、また企画財政部長のほうにもご理解をしていただきたいと思いますが、そのときはよろしくお願ひいたします。

○市長 先ほど途中で申し上げました時間に近づいてまいりましたが、委員さん、最後に。

○委員 最後に。今、不登校のこととか気になって、そういうことのご家庭と、学校など自分の教室の授業とをつなぐとかっていうのは、今後考えられたりはされていないですか。

○教育長 今、委員さんが、保護者の立場で、保護者でなくてもやはり関心があるところだと思います。本市でもやはり不登校の子供たちが増えておりますので、ICTを活用して、インターネットでということでは何とかできないかということで、検討しておりますが、なかなか課題があって、先に進めない状況です。

今、笠戸島にふれあいラウンジというのがあります。そこに来ている子供たちと学校をつなぐようなことからできればいいかなと思っています。ある市では、学校での授業を保護者や子供たちが希望すれば、負担にならないければ学校と教室をつないで、授業に参加させましょうというようなことがあります。子供たちの不登校の状態もいろいろありますので、子供たちに合った形でインターネットが使えれば、ICTが使えればと思っています。いろいろ研究していかなくてはいけないかと。

そのことで、出席扱いにもできるという文科省の見解もありますので、その辺りもまた研究課題としてやっていかなくてはいけない。いろいろな課題があるので、すぐにはできないのですが、研究していきたいと思っています。

○委員 個別最適化をお願いします。

○市長 いろいろご意見ありがとうございました。先ほども教育長がまとめたので、もう私のほうは発言するようなことはないのですが、このICT教育、今、一方で働き方改革があるのです。世の中総じて働き方改革。委員が先ほど言われましたけども、教師の方も大変仕事量が増える。だからこういったICT教育で仕事も減量できれば一番いいので、そういう意味では、今、道半ばというか、今途上だと、そしてまた試行錯誤も重ねているという、先ほどから話もありますので、これをコロナで、そしてまた働き方改革も変わる、全体的にICT教育、いいものもあるけど、ちょっと考えなくてはいけない部分もあるという中で、トータルで今からどうあるべきか、今日、委員の皆さん方からいろんな意見を聞くことができ、これをまた学校教育現場のほうへも十分に生かして、また試行錯誤、段階的に、働き方改革やらコロナ対策に十分生かしていただけたらと思います。ということで、まとめにはなりません、事務局のほうにお返しします。

○教育次長 それでは熱心なご協議をどうもありがとうございました。

以上をもちまして、令和3年度下松市総合教育会議を終了いたします。お疲れさまでした。

午後3時35分終了